

## 学会ニュースNo.84 トピックス

- ・2005年度研究発表大会プログラム
- ・地理の言葉「魚礁」
- ・地理学会ホームページリニューアルのお知らせ

## 会 告

## ○2005年度(第60回)研究発表大会プログラム

日 時：2005年6月4日(土) 9:30より

会 場：立正大学熊谷校舎6101教室・6102教室(今年度は2会場となります)

\*は発表者 発表時間：口頭発表は20分(質疑応答を含む)

《口頭発表1》9:30～11:10

- 9:30～9:50 多田統一\*(東京都立荒川商業高校定時制)・上野英夫(千葉県立柏中央高校)・中牧 崇(立正大・非)：地理教育研究委員会の活動から－地理教育の現状と課題(その2)－。
- 9:50～10:10 中牧 崇(立正大・非)：地理的見方・考え方の構築に関する考察－大学における教職課程の地理学の授業を通して－。
- 10:10～10:30 上原富二男(沖縄大)：粟国村における水利用形態の変化。
- 10:30～10:50 小川 護(沖縄国際大)：粟国村における農業と地域振興。
- 10:50～11:10 崎浜 靖(沖縄国際大)：地籍資料からみる粟国村。

《ポスター発表紹介》11:10～11:15(集会委員会) ※掲示時間は10:00～16:00です。

中村洋介(立正大)・宮谷淳史(東京工業大・院)：森本－富樫断層帯における最終間氷期以降の上下変位量分布と金沢－七尾断層帯のセグメンテーション。

永井千裕・木出崎洋一・飯嶋孝之(立正大・学)・原美登里(立正大)：郡上市八幡町の水環境。

元木理寿(立正大・PD)・松尾忠直(立正大・院)・秋山安澄・新井裕介・飯嶋孝之・伊藤加織・小俣卓充・木出崎洋一・澤 美咲・千葉秀樹・寺沢也寸志・永井千裕・鍋谷智司・藤田隆一・保戸塚諒・松村聡子・丸山絵里子・吉岡 章・渡邊秀樹(立正大・学)・小椋学(立正大・院)・原美登里(立正大)：熊谷市街地の都市構造データベースの作成－2004年秋－。

松尾忠直(立正大・院)・元木理寿(立正大・PD)・原美登里(立正大)：熊谷市市街地におけるコンビニ店舗の立地特性。

戸田真夏(立正大・非)：斜め写真による自然地理。

後藤真太郎\*(立正大)・矢崎真澄(立正大・非、科学技術振興機構・研究補助員)・濱田誠一(北海道立地質研究所)・沢野伸浩(星稜女子短大)・佐尾邦久・佐尾和子(株海洋工学研究所)：北海道網走市沿岸における油流出事故用ハザードマップの試作。

松尾忠直(立正大・院)・高田明典(立正大・研)・島津 弘・岡村 治(立正大)：荒川堤外地における土地利用の現状と変化。

高田明典(立正大・研)・矢崎真澄(立正大・非、科学技術振興機構・研究補助員)・瀬戸真之・高木 亨(立正大)・半澤実奈子(立正大・ORC)・島津 弘・岡村 治・片柳 勉(立正大)：立正大学地理学教室における地形図の整理とその利用。

《総会》11:20~12:10 研究発表大会会場で行います。  
12:10~12:30 田中啓爾記念地理学奨励賞授与式  
《会長講演》13:30~14:30 澤田裕之(立正大):アメリカ合衆国Imperial Valleyの灌漑農業とSalton Seaの環境問題。

《口頭発表2・第1会場》14:40~17:10  
14:40~15:00 助重雄久(富山国際大学):長崎県対馬における韓国人観光客の受け入れとその課題。  
15:00~15:20 谷口智雅(立正大・非)・丸井英弘(武蔵野共同法律事務所):吾妻流域における伝統産業と地域開発。  
15:20~15:40 初沢敏夫(福島大):山形仏壇産地の特徴と課題。  
15:40~16:00 岩動志乃夫(東北学院大):秋田市の団地住民にみる消費者購買行動と商業地の特性。  
16:10~16:30 上村康之(弘前福祉短大・非):地方都市の郊外住宅地居住者にみる街なか居住意識—青森県八戸市是川団地,旭ヶ丘団地を例に—。  
16:30~16:50 松尾忠直(立正大・院):北海道における企業的生シイタケ生産の形成と構造。  
16:50~17:10 中山正樹:海水浴場の成立に関するノート—幕末および明治初期の2件の史料について—。

《口頭発表2・第2会場》14:40~17:30  
14:40~15:00 早乙女尊宣(立正大学大学院地球環境科学研究科ORC)\*・高村弘毅(立正大学大学院地球環境科学研究科ORC)・栗下勝臣(株)日本地理コンサルタント)・門村 浩(立正大学大学院地球環境科学研究科ORC)・石田 武(立正大学大学院地球環境科学研究科ORC):続・荒川扇状地の地形を見直す。  
15:00~15:20 小玉 浩(立正大・非)・高村弘毅(立正大):立正大学熊谷校地内深井戸の地下水位変化。  
15:20~15:40 河野 忠(日本文理大):大分県の磨崖仏と湧水の存在について。  
15:40~16:00 元木理寿(立正大・PD):熊谷市における家庭ごみ排出量。  
16:10~16:30 矢崎真澄(立正大・非, 科学技術振興機構・研究補助員):地図ソフト「カシミール3D」を使用したアンケート調査による読図技術の習得に関する一考察。  
16:30~16:50 戸田真夏(立正大・非):飛行機からの自然地理。  
16:50~17:10 小長谷洋之(中央大・非):中国の鉄道とアメリカの鉄道—大陸国家のネットワークを比較して—。  
17:10~17:30 北村嘉行(東洋大):中国自動車工業の1990年代における地域構造の変化。

《地理写真展示》

- ・多田統一(東京都立荒川商業高校定時制):研究所めぐり(Ⅲ)—施設および設備—。
- ・小長谷洋之(中央大・非):中国の鉄道とアメリカの鉄道—大陸国家のネットワークを比較して—。
- ・谷口智雅(立正大・非):Wisconsinの氷河地形。
- ・中村洋介(立正大)・高田明典(立正大・研)・瀬戸真之(立正大):新潟中越地震による被害。

《懇親会》17:45~19:00 学生食堂(ステラ)で行います。

## ○地理の言葉 「魚礁」

矢崎 真澄

四方を海に囲まれている日本は、水産資源国です。水産物は、動物性たんぱく質供給量の約4割を占め、生活習慣病の予防に役立つEPAやDHA、カルシウムや鉄分などを豊富に含み、自然な形で摂取できることから私たちの食生活に欠かせません。日本の水産物の輸入量は増加を続けており、国内消費量は国内生産量を大きく上回っています。水産物の需要は世界的に増加の傾向にあり、将来的には需給の逼迫も予想されています。200海里体制を契機に、水産資源の安定化や生産者価格の向上を図るため、獲る漁業からつくり育てる漁業へと転換しつつあり、漁業者の自主的な取り組みが行われるようになりました。つくり育てる漁業は、海域における増殖と養殖に大別され、さらに増殖は海の種づくりと海の場造りに区分されます。近年、沿岸漁場の生産力向上のため、漁港事業と一体化した漁港漁場整備法に基づいて、海の場造り＝「魚の棲みか造り」が各地で盛んに行われています。

底質が岩石またはサンゴ礁で、隆起した海底地形を一般に「礁(シヨウ)」と呼んでいます。このような地形のある場所を天然魚礁または魚礁と呼び、日本近海では武蔵堆、鳥海礁(グリ)、向瀬、瓢箪礁(グリ)、大和堆、玄達瀬、松出し、銭洲、黒瀬、新黒瀬、瀬の海、中ノ瀬、沖の山、土佐濬(バエ)等が知られており、地方によってその呼び方は様々です。海外では、北海のドッガバンクや米国東海岸のグランドバンクなどの浅堆が有名です。魚礁となる場所では、海水が海底から表層に向かって上昇する湧昇流によって栄養塩が供給されるため、プランクトンの発生を促し、魚の集まる好漁場が形成されます。漁場造成のため人工的に作った魚礁を人工魚礁といい、築磯として古くから行われています。1950年代に人工構造物の魚礁の造成が提唱されて以降、廃船や廃車、コンクリートブロックや鉄骨を用いた魚のアパート造りが各地でみられます。人工魚礁には沈設型のほか、表層や中層の回遊魚を対象にした浮魚礁も各地に設置されています。魚礁は、漁業者にとって絶好の漁場になり、かつ航行時には最も注意しなければならない海底危険物になります。そのため、海図では航行に危険な浅瀬や暗礁が魚の記号で示されています(図)。

2000年、政府は「沿岸域圏総合管理計画策定のための指針」の中で、沿岸域の特性に応じて総合的な沿岸域管理を推進することを決めました。こうした中、水産資源の持続的な利用を目的とした取り組みが、教育現場で行われています。神奈川県横須賀市の長井漁港周辺の海岸は、岩場の続く景勝地で、沖合には亀城(カメギ)礁という天然魚礁があります。亀城礁周辺の海底はアワビ・ウニ・サザエ等の貝類が豊富なことで知られていますが、沿岸の水質汚濁や悪質なダイバーの密漁により、水産資源は減少傾向にあります。このため、1991年以降、県立三崎水産高校は、水産実習の一環としてクロアワビ・マダカアワビ・メガアワビの三種類の稚貝を飼育、放流して、生徒に水産資源の大切さを教育しています。このほか、長井漁港では毎年10月頃、港周辺の小学生を対象に、養殖ワカメの種付けの体験学習が行われています。こうした活動は自然観察や職業体験などの要素を持ち、漁業についての理解を深める貴重な機会になっています。

陸と海の接する沿岸域は、古くから人間生活の場であり、多目的に利用されてきました。沿岸域における多様な利用者間の調整のあり方を検討することや資源の保護・保全と持続的な開発・利用といった、相反する問題の解決が今求められています。食卓に旬の海の幸を一品添えて、沿岸域を取り巻く問題に関心を向けてはいかがでしょうか。



図：魚礁の記号(1:50,000海底地形図による)

## ○お知らせ

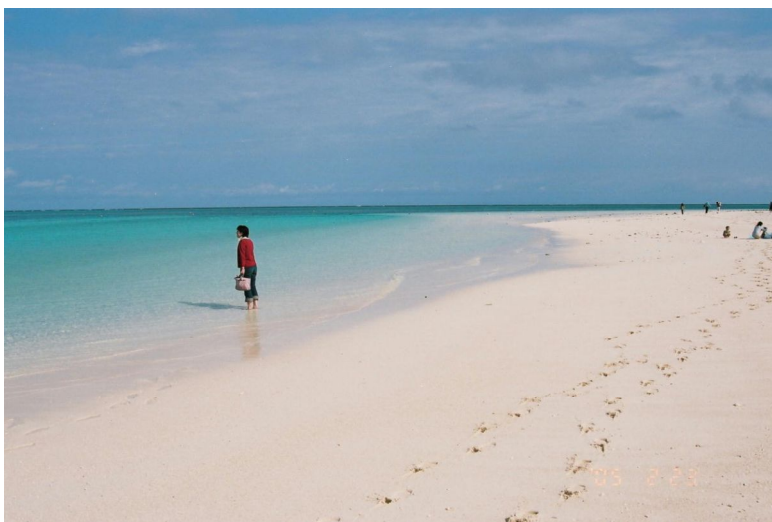
### 地理学科ホームページリニューアルのお知らせ

地理学科のホームページがリニューアルしました。ホームページの内容は随時更新してありますのでぜひ一度ご覧下さい。ホームページには学科の紹介の他、地理写真のコーナー、地理学科教員がほぼ毎日書き込むブログもあります。日々の学科の様子を知ることが出来ます。また、あわせて学科のメールアドレスも取得しましたので、電子メールでのお問い合わせも受け付けております。ぜひ、ご利用下さい。

地理学科ホームページ：[http://www.ris.ac.jp/faculty/earth\\_env/chiri/](http://www.ris.ac.jp/faculty/earth_env/chiri/)

地理学科メールアドレス：[geography@ris.ac.jp](mailto:geography@ris.ac.jp)

### 【地理写真】



はての浜

沖縄県宮古島

2005年2月23日高木撮影

宮古島の東側に東西に連なる砂州。浜の上には植生はなく、白い砂浜が広がっている。海の色はコバルトブルー。島からは陸続きではなく、観光船で渡る。夏季は海水浴場として賑わう。

### 編集後記

発表大会のプログラムを掲載しました。今回は発表数が多く2会場にて開催となりました。会員皆様の多数の参加をお待ちしております。今年度から大学食堂の業者も変わりました。これまでの懇親会とはひと味違うかもしれません。懇親会への参加もお待ちしております。

## 立正地理学会ニュース No.84

2005年5月9日発行

編集者 立正地理学会編集委員会

発行者 立正地理学会 〒360-0194 熊谷市万吉1700 立正大学地理学教室内

電話 048-539-1660 振替 00130-8-13453